

インタラクティブ空間演習 (女子美術大学大学院)

「1. 記号と意味作用」 pp.66-73  
(2014-07-02)

池上嘉彦 著「III. 創る意味と創られる意味—意味作用をめぐる—」、『記号論への招待』

担当： 石井 拓洋  
ishii05042@venus.joshibi.jp

2014

「伝達」と「意味作用」 p.66

コミュニケーションには「メッセージ」が必要である

コミュニケーションの特徴

- ・ 「メッセージ」の授受が行われる
- ・ 「メッセージ」とは〈伝達したい〉ことが記号化されたもの
- ・ 表現 (「表に現す」こと) が先行する (c.f. 38)

(c.f. 66)

\* 「メッセージ」は「メディア」によって伝達される

「伝達」と「意味作用」 p.66

「メッセージ」は「意味作用」を持つ

「メッセージ」  
= 「それがなんらかの他のことを表しているものによって構成」  
= 「メッセージ」には「意味作用」が存在する

「意味作用」  
= 「あるものが何か他のものを意味している」という作用 (c.f. 31)

「伝達」と「意味作用」 p.66

III 章では このあと 何が述べられるのか？

- 前の章 II 章では？  
= 「伝達の間」という側面からコミュニケーションを考えた
- この章 III 章では？  
= 「記号の意味作用」という側面からコミュニケーションを考える

「記号」と「記号機能」 p.67

「記号機能」とは？ 「記号」とは？

- 「記号機能」とは？  
= 「あるものが別のあるものの代わりとしてそれを表している時、その働き」のこと (c.f. 67)
- 「記号」とは？  
= 「記号機能」を担っているもの (c.f. 67)  
= 「符号」と呼ぶべきものを超えていくようなもの (c.f. 3)  
= 人間が「意味あり」と認めるものはすべて『記号』 (c.f. 5)

\* ある面では、「記号」や「メッセージ」の語の部分を「作品」と読み替えてもよいのでは (石井)

「記号」と「記号機能」 p.67

「記号機能」とは？ 「記号」とは？

- 「コードに基づくコミュニケーション」の場合  
= 「記号」の概念が優先 > 「記号機能」の概念が従属

例)

- 1 「トン・ツー」自体はモールスのコードに基づいているのが明らか。
- 2 なので、「トン・ツー」自体には、意味があるのは明らか。
- 3 つまり、「トン・ツー」自体は疑いなく「記号」だ。
- 4 では、その「記号」にはどんな意味があるのかな？
- 5 ということで「トン・ツー」の意味を探る (「記号機能」を探る)

、、、という思考順序を進めるから「記号」が優先する位置づけとなる。

「記号」と「記号機能」 p.67

「記号機能」とは？ 「記号」とは？

■ 「推論」に基づくコミュニケーションの場合

= 「記号機能」の概念が優先 > 「記号」の概念が従属

例)

- 1 「葉が散っている」。ここに意味はあるのか？ たまたまか？
2. もしかして「風が吹くと、葉が散るんじゃないか」(推論)
3. では「葉が散っている」のは「風が吹いた」ことを意味している。
4. 「葉が散っている」ことには、意味があるな(「記号機能」あり)。
5. それなら、「葉が散っている」ことそれ自体は「記号」だな。

..、という思考順序を辿るから「記号機能」が優先。  
この場合、その人は積極的に意味を讀もうとする。 → 「主体的」である。

(※ 講義「言語論的転回について」スライドより)

シーニュ(言語記号) = 語言業の「犬」

・ シニフィエ = その記号が意味する「概念」  
ex) 日本語でいう「犬」という「概念」

+

・ シニフィアン = その記号の「聴覚イメージ」  
ex) "inu" という音

⇔

・ しっぽの生えた  
4本足で歩く生き物

・ その生き物 **それ自体**

14.7.2

「記号表現」と「記号内容」 p.68

「記号表現」(シニフィアン)、「記号内容」(シニフィエ)

■ 「記号表現」(シニフィアン、仏 signifiant) とは？

→ 「記号機能」における〈指し示すもの〉のこと。

→ 「能記」とも。

例) : 犬でいえば <INU> という音のこと。「聴覚イメージ」。

■ 「記号内容」(シニフィエ、仏 signifie) とは？

→ 「記号機能」における〈指し示されるもの〉のこと。意味内容。

→ 「所記」とも。

例) : 犬でいえば <犬> という「概念」のこと。犬それ自体ではない。

「記号表現」と「記号内容」 p.68

「記号表現」(シニフィアン)、「記号内容」(シニフィエ)

【注意！】

※ 「シニフィアン」とは、本来「聴覚イメージ」のみを示すもの。  
(cf. ソシュール『一般言語学講義』影浦ら訳、p.118)

※ しかし、池上『記号論への招待』では、「シニフィアン」は、聴覚に限らず、感覚で捉えられるイメージ全ての意味で使用される。

「記号表現」の方がわれわれにとって何らかの形で知覚できる対象である  
(cf. 池上『記号論への招待』p.69)

「記号表現」と「記号内容」 p.68

「記号表現」(シニフィアン)、「記号内容」(シニフィエ)

「シニフィアン」と「シニフィエ」は相互依存関係にある。

→ いずれかが無いと、「記号機能」は成り立たない。

「記号表現」と「記号内容」の非対称性 p.69

「シニフィエ」(概念)に対する「シニフィアン」(聴覚イメージ)の優位

「記号表現」と「記号内容」の非対称性 p.69

「シニフィエ」(概念)に対する「シニフィアン」(聴覚イメージ)の優位

✕ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) = 「シニフィエ」(概念)

○ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) > 「シニフィエ」(概念)

「記号表現」と「記号内容」の非対称性 p.69

「シニフィエ」(概念)に対する「シニフィアン」(聴覚イメージ)の優位

✕ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) = 「シニフィエ」(概念)

○ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) > 「シニフィエ」(概念)

※そのことで池上は何を言いたかったのか ???

「記号表現」と「記号内容」の非対称性 p.69

「シニフィエ」(概念)に対する「シニフィアン」(聴覚イメージ)の優位


✕ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) = 「シニフィエ」(概念)

○ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) > 「シニフィエ」(概念)

※結局、「言語論的転回」=「言語名称目録観」の否定の言い換えに相当?

(※講義「言語論的転回について」スライドより)

「もし語というのが、  
あらかじめ与えられた概念を表出する役目を受け持ったものであるならば、  
それらはいずれも意味上精密に対応するものを、言語ごとにもつはずである。  
ところが**事実**はそうではない。  
フランス語は『借りる』ことを『貸す』ことをも無差別にlouer (une maison)という。  
ドイツ語ならばmietenおよびvermietenと言い分けるところである。  
それゆえ**価値の精密な対応はない**」 ソシュール『一般言語学講義』163



日本語 : 貸す  
ドイツ語 : mieten  
フランス語 : louer

日本語 : 借り  
ドイツ語 : vermieten  
フランス語 : louer

「記号表現」と「記号内容」の非対称性 p.69

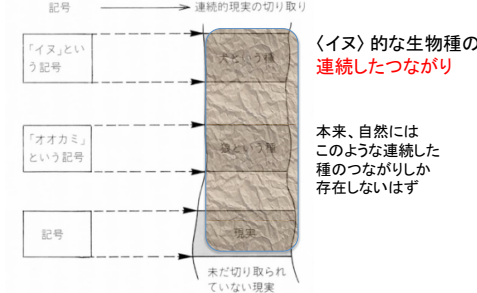
「シニフィエ」(概念)に対する「シニフィアン」(聴覚イメージ)の優位

✕ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) = 「シニフィエ」(概念)  
※まず概念自体が存在して、そこから記号 (=表現されたもの) が生まれるのではない。  
(言語名称目録観の否定)。 その意味で、上記2つが対等ということは常にない。

○ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) > 「シニフィエ」(概念)  
※ 記号 (=表現されたもの) によって、概念が**つくられる** (言語論的転回)

「分節」articulation のはなし

記号 → 連続的現実の切り取り



「イヌ」という記号

「オオカミ」という記号

記号

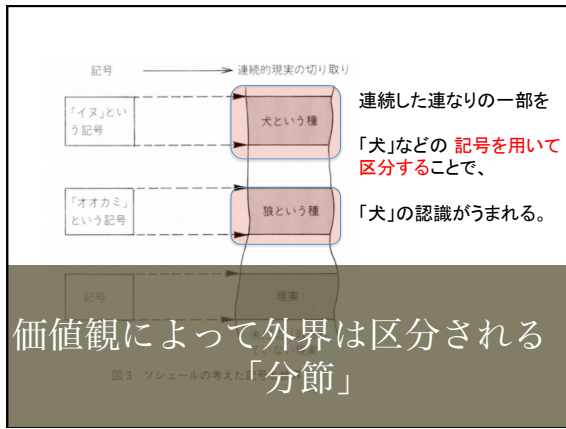
「イヌ」的な生物種の連続したつながり

本来、自然にはこのような連続した種のつながりしか存在しないはず

未だ切り取られていない現実

図3 ソシュールの考えた記号と世界

図: 土田知則『現代文学理論・テキスト・読み・世界』東京:新曜社、1996年、21頁。これを石井が加工。



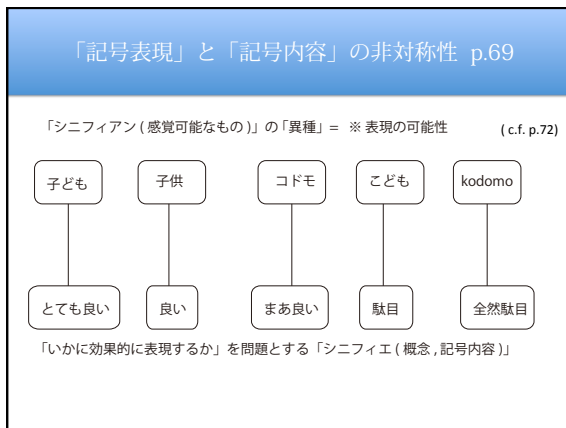
「記号表現」と「記号内容」の非対称性 p.69

「シニフィエ」(概念)に対する「シニフィアン」(聴覚イメージ)の優位

✕ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) = 「シニフィエ」(概念)

○ 「シニフィアン」(聴覚イメージ) > 「シニフィエ」(概念)

※ さらに「表現」活動の可能性を、これは示唆しているのでは ???



「記号表現」と「記号内容」の非対称性 p.69

(c.f. p.72-73)

記号

「記号」= 単体としての記号 c.f. 73

記号 A   記号 C   記号 B

メッセージ = 「記号」が並べられたもの = 「テキスト」 c.f. 73

「記号」単体 での意味と取るべきか? 「メッセージ」 での意味か?  
→ 「統辞論」の問題 (あとでふれるとのこと)

「記号表現」と「記号内容」の非対称性 p.69

※ しかし、ここでの池上の議論は、

「シニフィアン ⇄ シニフィエ」とする「記号内部」での議論の領域だったはずが、

「記号 ⇄ その意味するところ」の「記号とその外部」の議論の領域に

すり替わっているのでは、.....??